自主研修　　# 茜染め体験会　　2023 年 5 月 27 日

ニホンアカネ

三郡山の中腹にあり自然に囲まれた「サンビレッジ茜」（飯塚市山口）を会場に、会員 11 名と小学生 1 名の計 12 名で自主研修を行いました。この辺りはかつて「茜屋」と呼ばれた筑前茜染の発祥の地です。

午前は、薫風を感じながら屋外で茜染め体験です。

講師は飯塚市筑前茜染協議会の森本精造会長、谷忠廣さんが務めてくださいました。

森本会長から筑前茜染の歴史や、復活の取り組みについての話を伺いました。

次に、谷講師から材料となるアカネについてと染の工程、模様のつくり方などのレクチャーを受け、「茜染の作品作り」にチャレンジ。それぞれ出来上がりを思い描いて模様づくりをするのですが、初心者の私たちには仕上がりがどうなるのか？予想がつきません。

森本会長、谷講師からレクチャーを受ける会員の真剣な顔

さてさて、どうしたものか･･･と思案中･･･

思い思いに割りばしやビー玉をはさみ、輪ゴムでしっかりとめます

模様を絞ったハンカチにしっかり水分を含ませます

ミョウバン(布の重さの 5～10%)で作った媒染液を、ゆっくり 80 度まで上げて 15～20 分

媒染後、布をジャブジャブと水洗いします

3 回煮出したインドアカネの染液に投入。こちらも 80 度で 15～20 分

染液を水で洗い流すと、いよいよ～!

ジャーン!!

全員､満足げなドヤ顔です

「すごーい！キレイ！」

の声があふれました

森本会長、谷講師

ありがとうございました!!

茜染体験を終えての感想

・シルクやウールなど動物繊維のほうが、木綿など植物繊維より染まりやすいと初めて知った
・かつては、熱した石でツバキの枝葉をジワジワ焼いて灰にしたものを媒染剤として使っていたことに驚いた
・今回はインドアカネで染めたが、貴重なニホンアカネでも染めてみたい
・三郡山系をはさんで、筑紫は「ムラサキ」、飯塚は「アカネ」　日本の古代色を彩る植物が身近に生育していたことは、とても興味深いです
・地元の皆さんがアカネ草の生育から尽力されているので、「筑前茜染」が復活するといいな
・楽しかったので、毎年体験したいです

アカネ草（ニホンアカネ）
アカネ科つる性多年生植物
葉は対生(4 枚のうち 2 枚は托葉)
ハート形　葉柄は 3～7cm
茎は四角で逆棘あり
根は宿根　年を経るほど赤くなる
10～11 月に白い花が咲き
晩秋に黒い液果をつける

左が貴重なニホンアカネの宿根
右がインドアカネの宿根

筑前茜染の作品

午後は自然観察会

施設内のレストランでの美味しい昼食のあとは、周辺の森散策を行いました。自由参加でしたが、嬉しいことに全員が残り、一大観察会となりました。

コースに精通している会員を先頭に歩きだしますが、ある程度予想していた通り、１０メートル歩くのに何十分かかるのだろうかという、森林インストラクター魂炸裂の散策となりました。

アカガシ、ウラジロガシ、(ケ)ヤマハンノキ、ウラジロノキなど「動く植物図鑑」の先輩方が次々と同定を進め、図鑑と照らし合わせ、しっかりとメモをとる参加者が多くいました。

少年を見守る会員の
優しいまなざし･･･

この調子で 2 時間半ほど、休憩も忘れて、充実した森歩きを楽しみました。
その間、疲れた様子も見せず、独自にカナヘビやトカゲ探しに熱中して歩きぬいた小学 2 年生を頼もしく思いました。きっと素敵な森林インストラクターになりますね（？）

研修を終えて

本当に楽しい 1 日でした。それもこれも会員ひとりひとりが「楽しい 1 日にするぞ」という気持ちで臨んだからだと思います。茜染の時間も散策の時間も、「植物」の力、「森」の魅力、それから、「みんなでやる」楽しさを再確認できました。体験することの楽しさ、大切さをあらためて感じる一日になりました。

参加者　樋口、諸石、久保田、藤原、大熊、千田、丸山、金子、水田、嶺志(レイジ)君(小 2)
スタッフ＆報告　後藤、常藤